

令和4年産の銚田市の春メロンの結果について

8月にJA茨城旭村令和4年度メロン部会生産者大会が、11月にはJAほこたメロン部会生産者大会がそれぞれ開催され、管内2つの農協の令和4年産メロンの結果が報告されました。

管内の春メロンは、アンデス、クインシー、イバラキングを中心に、オトメ、なだろうレッド、令和3年から本格的に出荷が始まったエルソル等が栽培されています。作柄概況としては、2月ごろまで低温で推移したため、4月出荷のメロンについては着果不良や肥大が小さい果実が見られました。3月からは気温が上がり、生育が良くなりましたが、3月下旬の降雪や低温の影響を受け、5月上旬出荷のメロンはネットの乱れが散見されました。その後4月中下旬は連続した曇天の影響を受けたものもありましたが、5月下旬以降は概ね例年並みに回復しました。

以上のようにメロン栽培には厳しい気象条件でしたが、生産者の努力やギフト、デリバリー需要があったこと、カット販売等の売り方の変化への対応、全国的なメロンの数量の減少により高い需要が続いたこと等を背景に、例年より高単価で販売されました。

令和4年産春メロンは高単価ではありましたが、国際情勢の影響を受け、生産関連諸資材が大幅に値上がりしており、経営に深刻な影響が出ています。今後も普及センターでは、土壌診断による適正施肥の推進や技術指導等を通して、メロンの安定生産を支援し、儲かる農業の実現を目指します。

令和4年11月7日

